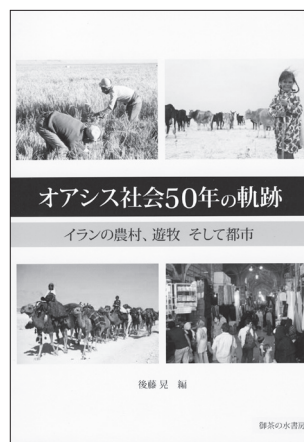


後藤 晃 編

『オアシス社会 50年の軌跡 —イランの農村、遊牧 そして都市』

御茶の水書房 2015年



本書は、イランの一つのオアシス農業地帯を40年余りにわたり観察し調査した研究報告であり記録である。このオアシスは首都テヘランから南に1000キロのマルヴダシュト地方にある。灌漑農業を営む200余りの村があり、降水量は年平均300ミリ、乾季の夏には湿度は7%を切り気温が40度まで上がる乾燥地帯である。

オアシスを望む一角にはアケメネス朝ペルシアの神殿ペルセポリスの壮大な遺跡がある。この遺跡は紀元前330年にアレキサンダー大王によって破壊されたことで知られているが、オアシスを縦貫する川の堰は古代ペルシアに遡り、カナートと呼ばれる地下水路もまたオアシスの歴史を物語っている。

筆者がこのオアシスをはじめて訪れたのは1972年であり、すでに43年が経過している。この間村に住み込みまた近くの都市に滞在して調査を行い、地域に深くコミットしてきた。共著者もまた研究領域は異なるが同地域を研究対象とし、共同で調査を行うことで知識を共有しチームとしてこの地域に関わってきた。本書は個別にまた共同で研究を重ねたチームの成果である。

1972年の村は前近代から続く地主支配から解放されてほどなく、農民は家畜小屋のような家から徐々に抜け出そうとしていた。共同体的な規制も強く自給自足的側面をも多分に残していたが、地主が退去した村で経験の乏しい農業経営を共同で行いながら自立の道をさぐっていた。

ほどなくオイルショックが起こった。大産油国イランは石油価格の高騰で莫大な収入を得、これをもとに国王の開発独裁は強められた。開発の波を受け効率のよい農業を目指す政府の政策で村は解体の危機に見舞われた。さらに1979年の革命でイスラム体制の国家が誕生すると、経済政策にイスラム主義的の修正が加えられ、農業政策の変更が地域社会や農村に様々な影響を及ぼした。

この各時代に現場で立会い、地域社会や村の変化をつぶさに観察した。ここに記されていることは、観察者として時に生活者として現地に暮らし調べたことが土台になっている。農村の場から等身大の人々と社会を描き、さらに文献と史料によってこの地方の歴史を遡る形で再構成したものである。

この間のマルヴダシュト地方の変化は、日本に例えると明治維新からの100年に相当するほどに大きなものであったといってよい。農業社会をめぐる環境も大きく変わり、現在マルヴダシュト地方は大農業地帯に発展した。農家はレンガ造りの堅固な家になり、部屋には絨毯が敷きつめられ、テレビや冷蔵庫などの家電が整えられた。ぼろを着て裸足で走り回っていた子どもたちの中から医者や教員が育ち、村を出て企業家や弁護士として成功するものも現れた。農業地帯のなかに荒々しく誕生した町は人口14万人の大都市に変貌し、変化はきわめてダイナミックである。

この激しい変化によって、40年前のマルヴダシュト地方の社会をリアルに想像することは今日すでに非常に難しくなっている。世代が替わり記憶の多くが失われている。しかし、当時の村の生活の様子は我々のもとに写真として記録されており、地域の住民にとっては我々の記録は有形・無形の宝になっている。1970年代はすでに歴史となっている。我々はその時、研究者として現場に居合わせた。現場で立会いこの目で確認し記録してきた。このことの価値は大きいに違いない。

本書は二部構成になっている。第一部は、オアシスで展開した農業制度や土地制度について実証と文

献資料をもとに分析をおこなったものである。第1章では1960年代初めの農地改革まで続いた地主制について地主・農民関係を中心に、第2章では目まぐるしく変わる農業政策と農業社会の変容を分析している。また第3章では地方の名士である大土地所有者の系譜と社会的地位の変遷をたどっている。

第二部は、オアシスの人々の生活、市場、水利、革命期の村社会の動きを記録に重点をおいて描いたものである。第4章では2つの村を対象に40年間の変化を詳細に記述し、第5章では農地改革後の農村経済の変化に伴う地域市場の拡大と都市の発展が描かれている。また第6章ではイラン革命期の農村でのダイナミックな動きが、第7章ではオアシスの伝統的な水利および近代化にともなう村社会の対応を扱っている。

(ごろうあきら・神奈川大学経済学部教授)

第一部

第1章 地主制と村の農民（後藤 晃）

第2章 農政の展開と農業社会（後藤 晃、原 隆一、ケイワン・アブドリ）

第3章 大土地所有制の変遷（ケイワン・アブドリ）

第二部

第4章 遊牧民定住村40年のあゆみ（南里 浩子）

第5章 農民経済の発展と地域市場（後藤 晃）

第6章 イラン革命とイスラム農地改革（原 隆一）

第7章 マルヴダシュト地方の水利と社会（後藤 晃、原 隆一）